

## 新任の挨拶

松井幸一

4月より伝統ある関西大学地理学・地域環境学専修に助教として着任しました。専門は歴史地理学・村落地理学です。学部・大学院ともに関西大学の地理学教室で学び、学位取得後は学内のアジア文化研究センターで博士研究員として働きつつ、非常勤講師としても出講させていただいておりました。学部入学から数えるとすでに15年以上も関西大学の地理学教室にお世話になっており、私にとっての地理学教室は大学生活そのものでした。このたびそのような場所で働けることになり、とても喜ばしく感じるとともに身の引き締まる思いです。

簡単に自己紹介をしますと愛知県の名古屋市東区に生まれ、中学まではナゴヤドームの側にある住宅地に住んでいました。その後、高校入学と同時に犬山城がある犬山市に引越をして高校生活を送り、大学入学とともに大阪に出てきました。大阪に出てきた当時は梅田や難波の繁華街の大きさやJR以外の私鉄が充実していることに驚き、「すごい都会に出てきたな」と不安を感じるとともに興奮もしておりました。その後、大学生生活は決してまじめではありませんでしたが、何とか卒業し大学院に進学いたしました。

学部生の頃は勉学に打ち込んだとはとても言えない状況でしたので、大学院に入学した当初は研究の道へ進むなどとは全く考えていませんでした。しかし地理学教室の先生方に出会い、励まされながら勉強するうちに地理学の面白さに気づいていきました。多くの先生方のお世話になりましたが、その中でも地理学の奥深さを教えていただいた橋本征治先生と、研究の基本を一から教えていただいた高橋誠一先生との出会いが私の大きな転機となっています。両先生に出会うことがなければ、漫然と学生生活を過ごしていたと思います。

私の研究分野は歴史地理学・村落地理学ですが、学部から博士課程前期課程までは主に日本の城下町について研究をおこなっていました。しかし当時は自身の力不足から思うような結果を出すことができませんでした。そこで博士課程後期課程ではよりフィールドワークを重視する研究に変更し、高橋先生と同じ琉球を対象地

域として歴史景観や伝統的地理思想、村落が形成されていく過程にいかに関わるのかを研究してきました。この時期の調査、論文の執筆は大変でしたが、幸いにも共に切磋琢磨する同級生や、助言を与えてくれる優しい先輩方に恵まれ充実した大学院生活となりました。

学位取得後に博士研究員として働き始めた後にも、恩師の高橋先生とは各地に調査に行き様々な事を学びました。しかし、昨年その高橋先生がお亡くなりになったのは残念でなりません。研究だけでなく私的な事を含めて、いつも気にかけてくださっていた高橋先生が私の関西大学への着任を最も喜んでくれたと思います。

春学期も一段落した現在、4月に着任してからの事を振り返ってみるとしばらくは戸惑うことばかりでした。私が在学していた時には無かった共通教育の授業も増え、どのような授業をおこなえばよいのか悩みましたし、初めて担当する授業ばかりで準備に追われる毎日でした。またこれまでは知らなかった事務的な仕事の多さにも驚きましたが、様々な点で事務の方にサポートいただき、教室が多くの方に支えられている事を改めて実感しました。学生の頃には気づくことができませんでしたが、関西大学は規模、授業の質、事務の協力体制など、どれをみてもとても恵まれた大学なのだと今は強く感じています。

春学期は無我夢中で仕事をおこなってきたこともあり、あっという間に過ぎ去りました。ただ私自身まだ初めてのことも多く、「こうすれば良かった、あすれば良かった・・・」と反省することが多い毎日です。なにぶん力不足の点もありますが、少しでも早く教室の力になれるよう精一杯働かせていただく所存ですので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

(本学助教)



## Contents

Page 1 .....

巻頭言  
新任の挨拶  
松井幸一

Page 2 .....

バス1日巡検報告  
伊勢志摩の風土と  
黒潮文化  
清水紀宏

Page 3 .....

卒業生だより  
個性と直感という必需品  
山崎直

Page 4-5 .....

研究ノート  
蘇州城内運河の変遷  
方立

Page 6 .....

学窓から  
卒論から感じたこと  
川勝雄輔

Page 7 .....

卒業論文・修士論文一覧  
(2015年3月卒業・修士生)

Page 8 .....

地理学研究会再生  
検討会議についての  
お願い

Page 9 .....

今後の研究会行事  
教室だより

Page 10 .....

随想  
クライストチャーチの  
震災復興  
龍端真理子

新入生からの一言

Page 2-3,6-7

卒業生からの一言

Page 7

天野北斗  
私は文学部の地理学を専修するために、この大学へ来ました。歴史と関連付けた内容、そこから発展させた観光にも興味があります。

今西ともみ  
私は旅行をするのが好きなので地理学・地域環境学専修に決めました。地図を読むことや計算が苦手ですが頑張ります。これからよろしくお願いします。

川口さくら  
授業や巡検などを通して、地理学のことを深く学んでいきたいと思っています。不安な点もありますが、よろしく申し上げます。

北村有希  
高校の時に地理を取って地理の楽しさを知りました。大学ではもっといろんなことを学んでいきたいです。

栗林 梓  
入学前から地理学に興味を持ち、地理学・地域環境学専修に入ればと思っていたので、積極的に学んでいきたいと思っています。

桑田 咲  
私には地理しかできることがないので、一生懸命楽しく頑張りたいと思っています。よろしく申し上げます。

桑名友太  
私は世界を広い視野で見ることができるようになりたいと思ったので、地理学専修を選びました。これからよろしく申し上げます。

興沼亮太  
大阪府堺市出身の興沼亮太です。最寄駅は南海高野線初芝駅です。高校から地理が好きでした。サッカーと音楽が好きで、LIVEを見に行くのいろいろなところへ行きます。これからがんばります。

高橋奈夕  
地図を見ることが好きで、観光地理に興味があります。高校では、地理を学習していなかったため、知識はありませんが、よろしく申し上げます。

2015年5月30日・31日と伊勢志摩方面へのバス巡検がおこなわれた。今年度は「伊勢志摩の風土と黒潮文化」をテーマとしており、参加者は2回生28名、3回生15名、大学院生2名、引率教員2名(野間・松井)であった。

例年、集合はJR新大阪駅であったが、今年度は伊勢への高速道路利用を考慮して近鉄京都駅に8時30分集合であった。京都駅の複雑な構造のため何名かが集合時間に遅れたが、多少の遅れで全員バスに乗車し出発した。

バスは名神高速道路から新名神高速道路を通り伊勢市へと向かい、車中では伊勢地域の地形、伊勢市・志摩市・鳥羽市の統計による都市比較など伊勢志摩の基礎的な発表がおこなわれた。高速道路は懸念された渋滞もほぼなく、予定時間通りに土山サービスエリアにて一時休憩となった。その後、再びバスに乗車し伊勢自動車道を経由して伊勢西ICで降り、伊勢市古市へと向かった。古市は伊勢神宮への参詣が多くなるにつれて発達した地域で、かつては江戸の吉原、京都の島原などと並ぶ巨大な遊郭があった地域である。現在の古市には大規模な旅館は無くなったが、今も往時のたぐすまいを残す麻吉旅館の外観を見学し、旧参宮街道を歩きながら古市参宮資料館へと向かった。古市参宮資料館では世古館長の説明を聞きながら展示された遊郭や歌舞伎などの資料を見学した。

古市参宮資料館で参宮について学んだ後に伊勢神宮(内宮)へと向かった。伊勢神宮は内宮と外宮に別れており、皇室との繋がりが深い。またかつては御師と呼ばれる人々が全国各地の寄進者のかわりに参詣をおこなっていたが、明治以降は急速にこの制度も衰退していった。しかし、現在も講と呼ばれる信仰組織は全国各地に存続しており、地域によっては住民合同の伊勢参りがおこなわれているとの説明があった。

伊勢神宮内宮を参詣後、一時解散し昼食をとった。昼食は各自自由であったが、多くの参加者がおはらい町、おかげ横丁で食べたようである。おはらい町の参道には黒く濃厚なつゆ、太く柔らかい麺が特徴の伊勢うどんの店がいくつも並ぶほか、松阪牛を使った串焼きを売る店などバラエティーに富んでいた。

昼食後は伊勢志摩スカイラインを経由して志摩方面の海の博物館へと向かった。スカイラインの山頂の休憩所では眼下にリアス式海岸が一望でき、志摩市の津波予想などの説明があった。また車中からはミキモト真珠島が見え、御木本幸吉の生涯、海女の分布の説明があった。

海の博物館では一時間ほどの時間をとり、自由見学をおこなった。海の博物館は海女や漁、木造船、海の祭り、海の世界など海に関する約6万点の民俗資料を所蔵している。特に船の収蔵庫には100艘もの木造船が保管されており、その展示は圧巻であった。この博物館は展示物の多さからも海に関する有数の博物館の一つであるが、非常に交通が不便であるため、今回の

バス巡検で見学できたのは幸いであった。

海の博物館を見学後は再び伊勢市方面へと戻りながら、二見浦興玉神社・夫婦岩へと向かった。二見浦は古くから伊勢において特別な場所であり、かつては禊ぎをおこなってから伊勢神宮へ参詣するのが習わしであった。そのため現在も二見興玉神社に参詣してから伊勢神宮へと参詣するのが正式なお伊勢参りであるといわれる。近年は、夫婦岩のある神社として有名で当日も多くの観光客が訪れていた。二見浦は禊ぎ場としての他に、日本でも早期に開設された海水浴場としての一面をもっており、昔は修学旅行などでも賑わっていた。現在も複数の旅館が存在するが、純粋な観光客が宿泊することは少なくなっている。かわりに高校や大学のクラブ・部活などが団体で利用することが多いようで、旅館の前にはいくつもの学校の名前が掲げられていた。二見浦にはほぼ予定時刻通りに到着し、宿泊する二回生の一部、三回生、大学院生、教員が下車し、一時解散となった。

31日はまず二見浦にある賓日館を見学した。この建物は明治20年に建てられ、皇族や各界要人が数多く宿泊した場所である。平成11年まで宿泊所として利用されてきたが、休業後は国指定重要文化財として公開されている。120畳もの大広間や二重格天井の御殿の間など歴史・品格のある建物であった。

賓日館を見学後はJR二見駅から伊勢市駅へと移動し、伊勢市駅から徒歩で伊勢の外港である河崎地区へと向かった。河崎は勢多川の水運を利用して大量の物資を供給する問屋街として発展し、伊勢町の台所として江戸時代に繁栄を極めた場所である。現在はまちなみ保存運動がおこり、市民と行政の協働によるまちづくりがおこなわれている。河崎では町並みの見学の他に、伊勢河崎商人館の見学をおこなった。伊勢河崎商人館は江戸時代中期の酒問屋を修復した施設で、応接室や茶室、庭園があり往時の風景がよみがえる。伊勢河崎商人館を見学後に昼前に解散となり、各自で帰阪した。

初めて巡検を体験したが、バスの移動中の時間も伊勢志摩について学べ、有意義な時間を過ごせたと、先生方、学部生とも親交を深めることができ、楽しい巡検になって良かった。

(本学博士課程前期課程1年次生)



伊勢神宮にて

## 卒業生だより

## 個性と直感という必需品

山崎 直

僕は今、二足のわらじを履いて仕事をしている。本業は所謂「華道家」と呼ばれる仕事で、草月流いけばなを教授し、各所にてディスプレイもおこなっている。元々は母が先生であったが、現在は假屋崎省吾氏に師事している。

草月流は自由化が叫ばれた昭和初期に創流し、画一で伝統を重んじる格式高いものではなく個性を重視するスタイルが特徴で、生花に限らず枯れ枝や流木、竹、さらには日常に溢れる紙やアルミといった雑貨も花材として取り入れるなどアートな一面も併せ持つ。テキストは日本語と英語が併記されており、世界共通で同じものを使用する。

日頃の仕事の中で最も労力を使うのが料亭でのディスプレイ（生け込み）の仕事だ。許された3時間で高さ2.5mの大作の他8箇所を、片付けや水替えも含めて仕上げる必要がある。限定された時間と空間の中で直感を駆使して邁進しなければならない。

直感とは、山勘や思いつきとは異なる、経験から培った瞬間の論理による結果だと思っている。どういうわけか、時間に追われるほどそれが冴え渡るのだ。だからわざと(?)直前に行動するので、いつも周りに迷惑をかけている。僕のように周りを振り回す人がいたら、直感を大事にしている人だから仕方ないとか生温かい目で見ていただきたい。

もう一つの仕事はTrainDriveATSというiOSの鉄道運転ゲームの制作である。元々、筋金入りの鉄道好きで、大学から大学院の時代にはTrain Simulatorという実写版の鉄道運転ゲームの制作経験があり、それを買われたのだ。車両のみ鉄道会社の許諾を受け、それ以外は地形や駅名も含めて路線からダイヤまでフィクション(妄想)である。列車はダイヤを基に動いており、自列車を意図的に遅らせると全列車に影響が出て、かつ任意の列車に乗り移れることが最大の魅力であり世界で唯一のシステムなのだ。僕はバージョン2から路線設計とダイヤ作成などを担当し、次回作2路線(関西も?)を制作中である。無料版もあるのでiOS機器をお持ちの方はぜひプレイされたい。

さて、こんな僕が大学院で研究したのは「三重県を中心とした雑煮とそばうどんのだし汁の地域差」である。このような食文化の地域差は家政学が中心となって行われてきたため、地理的な考察が十分とは言えなかった。

雑煮の調査では、現地および各市町村の職員の方々計1000人以上に聞き取りを行い、「餅の形」「餅を焼くか否か」「汁」「具」「新年何日まで食すか」などの指標をGISで分析を行った。また各地の食堂のだし汁を塩分濃度計などで解

析し、色は相対的に比較した。

結果は割愛するが、特に興味深い点を2つ紹介する。まず過去に稲作が難しかった山間の一部では、不自由なく米が手に入る現在でも元且しか食されていない点だ。ハレの習慣が優先されている現れである。次に加太峠付近の集落では、「角が立たないように」と具の角は丸くするにも関わらず角餅を食している点である。これより伊賀側は丸餅であり、亀山側は具の角を丸くしない以外の食し方は共通であった。この理由を探るヒントがいなべ市の山間での聞き取りである。90歳前後の方々から「子供の頃は丸餅だったがいつの間にか角餅になった。この辺りは山向こうと違って都会で、目は名古屋に向いている。」という回答を得られた。つまり、加太峠も旧来は丸餅であったが、目は伊賀や関西ではなく平野の街々、そして名古屋に向き、その結果角餅になったのではないだろうか。

これ以上踏み込む時間が無く院を修了してしまったが、歳を重ねたらもう一度調査を行い、当時のデータと比較し論文にまとめたいと思いつけている。

僕は人よりも好きなことができ、そしてやりたいことが沢山あり、また院で出会って結婚し、すっかり鉄っちゃんになってしまった6歳の息子もいる。そのような環境、出会ってきた方々、そして迷惑をかけ続けている妻にいつも感謝している。これからも振り回し続けると思うのでこの場を借りて予め謝っておくことにする。(サウンドオブグラス 代表、2006年度大学院博士課程前期課程修了)



高山 拓  
自分から積極的に学んでいく姿勢を忘れずに、意欲的に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

橋 唯人  
私は高校生の時、頭を使うのが嫌だからという理由で文系へ進み、地理学・地域環境学専修は楽しそうだからという理由で選びました。大学ではぜひとも専門性が高く、なおかつ楽しい講義を受けたいと思つていたので、これからの専攻で多くを学び、多くを得ていきたいと思つています。

玉木雄一郎  
新2回生の玉木です。興味がある分野は農村地理学と経済地理学です。地理学の良いところは、環境学や経済学などの他分野とリンクでき、勉強する対象が幅広い点だと思つています。3年間よろしくお願ひします。

中井 蒼  
地理についての知識はほとんどありませんが、興味はあるので、たくさんの知識を得るようにがんばりたいです。

中井香月  
地理学専修が第一希望だったので、地理にこれよかったです。フィールドワークが楽しみです。よろしくお願ひします。

中川貴恵  
座ってるよりフィールドワークが好きなので、この専修にきました。自分の好きなことをいっぱいしたいです。

中村文香  
高校の時、地歴部というクラブに入っており、フィールドワークに行ったりもしました。そのため、地理学専修に興味を持ち、この専修を選びました。高校の時は、地理を取っていませんでした。わからない事が多いですが、がんばります。よろしくお願ひします。

橋本雅広  
地理学を学ぶために必要な基礎的な力をこの2回生ですっかり身につけたいです。授業外の時間でも積極的に自習に取り組みたいと思つています。地元でのフィールドワークなどにも取り組みたいです。

## 蘇州城内運河の変遷

方立

### 1. はじめに

中国では蘇州といえば、「地上の天国」という名誉がある。ほかには杭州もその名を博している。いずれも水郷といわれ、豊かな水資源に恵まれている長江下流の歴史的都市である。長江デルタの豊富な水資源は都市計画や立地に影響するのみならず、詩情あふれる雰囲気を作り出し、人々にとって望ましい生活環境が形成されてきた(図1)。

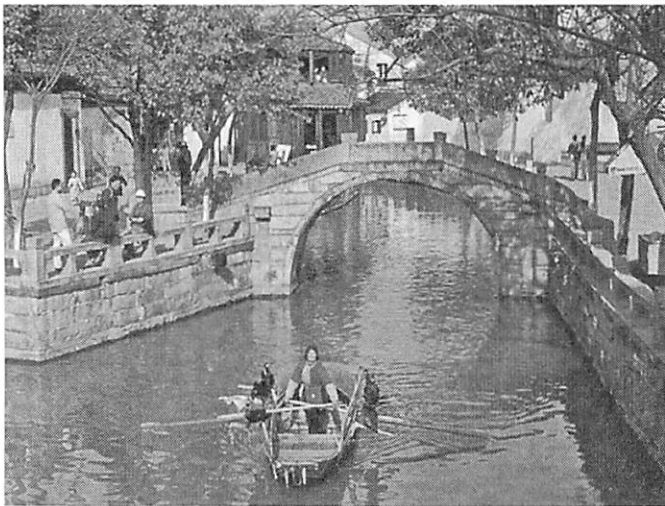


図1 現在の蘇州古城の水路(筆者撮影)

長江デルタの運河の起源は春秋時代まで遡ることができる。蘇州に都を定めた呉国は、豊富な水資源を背景にして強い国力を有していた。B.C.506年、西部の強敵である楚国との戦争で、前線へ物質と軍糧を運送するため、呉は長江と太湖を連絡する胥河を開削したことに始る。B.C.486年からB.C.484年に、長江と淮河を連絡する邗溝も呉国によって掘削された。その後、大小の運河がつぎつぎと建設され、四方八方に通じる水上交通網が形成されていった。それが最初の江南古運河にあたる。隋唐時代に疎通と拡張工事が実施され、正式に中国大運河の一部となった。

陸門と水門から組み合わせた城門から見ると、蘇州城建設の初期から、人工水路はすでに活用されていたと推測できる。江南運河は北から南下し、蘇州城の堀の西北部と接し、蘇州古城を回り、東南に出ることにより、蘇州の城内運河の水源になっている。つまり、大運河を利用する船は、必ず蘇州古城を通過しなければならない。蘇州城内の水路システムは大運河の一部として機能していたといえる。

### 2. 河川で規定される古城の範囲と歴史

中国の地方志や多くの古書では、古代都市のことを「城池」と称し、「城」が「城壁」、「池」が「堀」を意味する。その城壁と堀から組み合わせる「城池」という施設セッ

トは、この城の主な公共防壁と扱われてきた。「城池」が都市内部機能より先に築かれ、それらに囲まれている空間の中に、交通網、建築物、公共施設などを充填することによって、都市となる要件がそろっていった。このような城がいわゆる古城である。この視点から考察すると、城池に囲まれている空間はこの城の空間で、城壁が築かれた時期からこの城の歴史に相当すると考えられる。

伍子胥が蘇州古城を築いたときに、「相土嘗水、象天法地」で「閶闔大城」を計画した時、8つの城門いずれも陸門と水門の両方が備わっていた(図2)。つまり、都市空間を定める「城」と「池」がすでに完成されたことがわかる。そのため、蘇州の歴史はB.C.514年に建城され、以来2500年以上の歴史を持っていると一般的に認められている。そのうえ城址が原位置から移動せず、都城の規模もさほど変化がなかったことも特記できる。蘇州城は、中国先秦時代の都市構造にとって、重要な「ひな型」として貢献している。



図2 閶門(筆者撮影)

2004年に改修した閶門で、図のように水陸並びのスタイルは蘇州の特徴である。

### 3. 宋・明・清時代の城内運河の変遷

私は、南宋(1127~1279)時代から現在(2013年)までの期間で、蘇州古城の川筋の増減と変遷状況を明らかにするため、宋代の『平江図』(図3)のほか、明代の『蘇州府城内水道図』、清代の『蘇郡城河三横四直図』と『故蘇城図』を主資料として、現代の蘇州地図と比較対照した。本稿ではこれらの図のうち、川の情報だけを取り上げ、各時代での川筋の潰廃と保全を分析考察する。

図4は『蘇州古城地図集』所収の古地図を資料に、筆者が蘇州の河川の総延長を筆者が集計・図化したものである。

まず、13世紀から15世紀末の間に運河の総延長が増え

ていることが指摘できる。この時期の宋は中国封建王朝の頂上に達し、太湖周辺はめざましい経済発展をとげる。特に南宋時代には杭州に遷都されるが、蘇州は江南経済の中心地になる。洪水を防御し、肥沃な土地を維持するために、政府は運河の浚渫を重んじた。太湖周辺では北宋時代に約2294カ所、南宋時代は約2100カ所の水利施設が建設された。城内の運河は交通手段のみならず、洪水を軽減させる分流としての役割も果たした。

その後、運河の総延長が減少していく。16世紀から19世紀末、河川の数がしだいに縮減したことは、資本主義がいち早く萌芽した江南地方の特徴にふさわしいと考えられる。明代中期から、蘇州を中心に江南地方は手工業が隆盛となるにしたがい、人口が膨張し、居住密度が増加した。その一方で、手工業の発展に伴って、運河の環境汚染も引き起こされた。

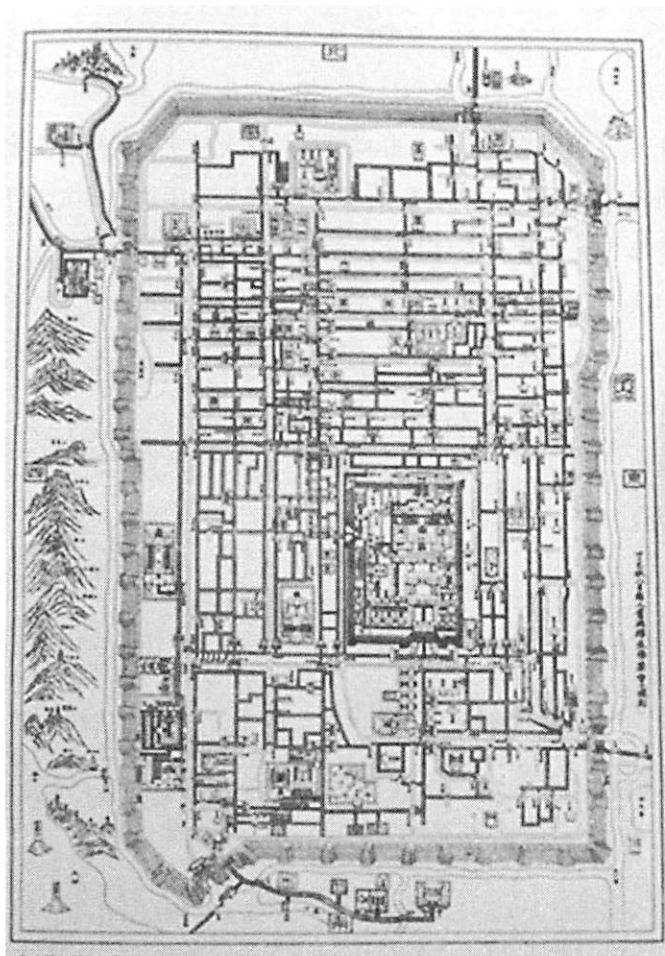


図3 1229年製作と考えられる平江図

この時期に蘇州には多くの文人や商人が集まり、独自の都市文化の形成に寄与したことも忘れてはならない。

20世紀になると、城内の河川の埋め立てが進行し、陸上交通が発達すると、狭い道路やアーチ橋は現代交通にとってはやっかいものとなる。埋め立てられた以外には、主に工場、学校、鉄道が建設された。防空壕の建設と環境整備も河川の景観変化に影響を与えた。

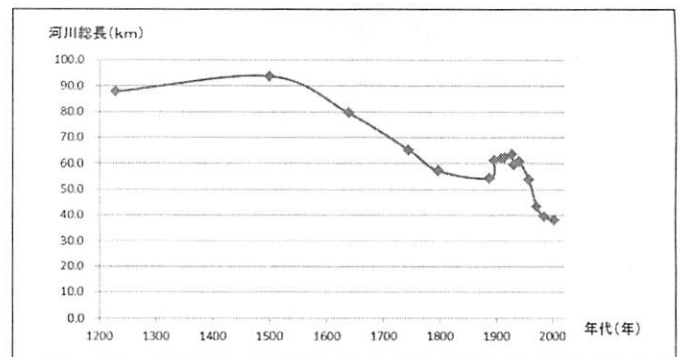


図4 蘇州の城内運河の総延長の変遷  
張光璋 (2012) のデータをもとに筆者作成

#### 4. 城内運河が縮減した要因

明代から中国成立の間(1500頃-1949)に、城内運河が大量に埋め立てられたことがわかる。その要因を考察すると、以下の4点が指摘できる。

①戦争が激しく、レンガと瓦からなる建築ごみが運河に落ちて、長い時間を経て、詰まってしまうことが多い。それを地方政府がすぐには浚渫しなかったため、しだいに廃棄されるようになった。

②地方政府は河川を計画的に管理していなかったことも大きい。以前は幅が2丈から4丈(丈は古代の丈量単位で、1丈は約3.3m)の河川や運河の、半分以上の面積を住民によって占拠されたこともある。

③蘇州が長江デルタに位置し、河川の勾配が緩やかで、水流が遅いため、土砂で堆積しやすい。川床が浅くなり、塞き止めることは、生態環境に影響するのみならず、水運交通にも不利となる。そのため、頻繁に浚渫工事を行わなければ、河川が狭くなり、川床が上昇し、最後に陸地になってしまったことも少なくない。史料によると、1746年から1779年の50年間あまり、蘇州市内では浚渫工事が全く実施されていなかった。

④近現代の都市発展が急速で、道路の拡幅と建物の増加は、やむを得ず河川の減少を引き起こした。

⑤衛生問題の観点から、一部の地方では、低収入の市民が運河付近に集住し、生活ごみを運河や河川に捨てるがあった。不潔な水には蚊やハエが繁殖するため、地方政府は河川を埋め立てる工事を1950年代から盛んに行った。

[付記] 本稿は2015年1月に提出した修士論文「蘇州古城の水郷景観の変遷と都市構造—残存する地図を資料として—」の一部をまとめたものである。

#### 参考文献

- 張光璋 (2012) : 「古地図中的蘇州古城河道変遷」, 『建築史』, 2012年3月号, pp.129-143.
- 張英霖 (2004) : 『蘇州古城地図集』, 古吳軒出版社.
- 瞿慰祖 (2007) : 『蘇州河道志』, 吉林人民出版社.

(2015年3月博士課程前期課程修了, エムエスツーリスト関西勤務)

## 東林岳図

東林と言います。元々日本史を学びたいと思ってこの学部へ入ったのですが、地理関係の授業を受けていくうちに、地元のことを地理学的な視点でもっと深く知りたいと思い、この専修を選びました。よろしく願います。

## 疋田優大

地域環境学専修に入ってまだ特に学びたいことは決まっていませんが、これから幅広い知識を学んでから決定したいと思っています。

## 平内雄真

新2回生の平内です。小さい頃から地理が好きで、主に世界地誌と人口統計が好きです。趣味は一人旅で旅先での景色や自然環境をこの目で見るのにはまっています。前の春休みには2週間弱北海道に行きました。これから3年間地理専修生としてよろしく願います。

## 松川昭太郎

不東者ですが、よろしく願います。

## 三村芽似

旅行に行くことが好きで、もっと深い知識をつけたいと思います。地理学を専修しました。これから3年間一生懸命がんばります。

## 安田えり

地理を専修し、色々な技術をがんばって身につけたいと考えています。巡検を楽しみにしています。

## 山口隆介

今年度から地理学・地域環境学専修に所属することになりました。この専修を選んだ理由は、どんな職に就くかなどの将来のビジョンが全く見えていなかったから、自分の一番興味のある分野であるこの専修を選びました。また旅行は好きなので、大学生のうち色々な所へ行って見聞を広げたいと思います。

## 秋山秀星

高校の時は、環境防災科という学科で防災について学んでいたのですが、地理にも活かせるように頑張りたいです。自転車が趣味なので色々な場所に旅したりしています。

## 学窓から

## 卒論から感じたこと

川勝 雄輔

私は地理学専修に所属したものの決して優秀な成績を残せず、留年を余儀なくされました。そんな中、卒業論文に関しても、正直なところ真剣に取り組もうという意識は薄く、正直舐めてかかっていた。しかし、僕の面倒を見てくれると手を挙げてくれた野間先生から「他の先生を見返したれ!」と喝を入れていただき、もともと体育会バレー部に入部していたこともあり、負けず嫌いな性格が功を奏して、5月に入ってようやく真剣に取り組むことが出来ました。

しかし劣等生と呼ばれ、地図を読むことも難しい僕には、資料や文献を読んでもさっぱり内容が理解できず、かなり苦戦しました。野間先生に指導を仰ぎながら、なんとか地形図を読みとり、文献の内容を理解し、卒論の方向性が示された時にはもう6月の半ばになっていました。正直厳しいと感じましたが、野間先生の期待を裏切れないという思いと、他の先生方を見返したいという思いから苦には感じませんでした。

むしろ、方向性が示せてからは、卒論が楽しくてしょうがなく、もっと時間があれば、もっと内容の濃い卒論を書けるのではと悔やむほどでした。

結果的に締め切りの前日の深夜にやっと完成しました。自分の中ではもっと良い卒論が書けたのではないかと思う反面、野間先生の期待には応えられ、他の先生方を少しは見返せたのではないかと思います。

私は関西大学の地理学教室を半年遅れで卒業しますが、卒業論文に私なりに真剣に取り組んだという経験は、今後の人生で大きな糧になると思います。私は就職活動をせず、競艇選手を目指すのですが、絶対に競艇選手になって、野間先生をはじめ、関西大学地理学教室に恩返しをしたいと思います。関西大学地理学教室の皆さんには4年半本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(本学4回生)

## 『千里地理』への投稿のお願い

以下の原稿を募集しています。随時、研究会事務局のメールアドレス (kandaichiri@gmail.com) にご投稿ください。図表などがある場合は、教室宛てに郵送いただいても結構です。そこに原稿を電子媒体に入れて同封していただいても構いません。

卒業されたOB・OGの方の近況やエッセーは「卒業生だより」にご投稿ください。また、現役の学生・大学院生は「学窓から」にエッセーをお寄せください。分量はいずれも最大1ページ分で、半ページでも構いません。1ページは2段組の1行21字、最大で約1600~1800字ですが行間を調整することで柔軟に対応します。写真や図の挿入も可能です。写真や図の挿入を希望される場合は、必ず写真や図のタイトルをお書きいただきファイルをお送りください。

大学院生や卒業生による「研究ノート」の投稿も歓迎しております。これは研究の成果、中間的報告を参考文献も付して論文スタイルで執筆するもので、2ページ完結の内容です。教員の編集委員で内容や形式をチェックし、加筆修正していただく場合もあります。1ページの分量は1600~1900字で、2段組で編集します。原則、図表を入れていくつかの章にわけて執筆してください。

いずれの原稿も末尾に氏名の読み、卒業・修了年度、現在の所属をお書きください。締切は設けていませんが、春号は1月末、秋号は7月末が目処です。



## 卒業論文・修士論文一覧 (2015年3月・9月卒業・修了生)

## 【卒業論文】

- 相澤なつ乃 建築物の外形と修飾要素から見た京町屋の残存評価：千両ヶ辻，大黒町，新町通，堺町通，綾小路通を例に
- 赤田 夕姫 「薄桜鬼～新撰組奇譚～」に係わる東京都日野市と京都市のアニメツーリズムの展開
- 池内 啓介 大阪市北区天満駅周辺の飲食店数変化と背景
- 王 鞍 日向 ラグビーのまち東大阪の歴史
- 奥村 早紀 和泉中央丘陵のニュータウン開発とその現状 —人口と居住の動向を中心に—
- 久保 美佳 岸和田旧城下町域の火災延焼評価
- 後藤 結美 長瀬と関大前の大学通りの比較
- 菅崎のぞみ 大阪を訪れる中国人観光客の近年の動向と買物行動
- 菅沼 萌 捕鯨の問題群を再考する —歴史・政治性・地域の環境をめぐって—
- 徳山 未紗 宮崎駿アニメ作品にみる人間嫌いと森の思想の変遷  
—『もののけ姫』(1997)以前の作品分析から—
- 永島 萌 豊中市の地域づくり
- 西田みづき 神戸フィルムオフィスの映像支援に対する取り組み  
—ロケ地としての神戸の新しい魅力—
- 古川 宏康 大阪における北と南のメンズファッションの違い —考現学を用いた考察—
- 巻幡 夏鈴 中山間地域の農業の現状と課題について —兵庫県養父市を中心に—
- 安宮まいこ 田尻町における泉州タマネギの発展と衰退
- 山本佳代子 阪神間における郊外住宅地の現状
- 山本 知佳 堺市のまちづくり —地場産業と世界遺産登録運動を中心に見て—
- 酒井 啓裕 和歌山市の防災・防火マップ作成と地区別考察
- 下田 省吾 日本の自転車交通の今後 —海外や日本の事例からの考察—
- 下村 実咲 「ならまち」のまちづくりと現在のすがた
- 高橋 宏和 京都の観光地における外国人観光客の動向
- 土井 千夏 高槻市の中心市街地の動向と活性化
- 中安 稜 再生可能エネルギーの推進と取り組み —あわじ環境未来島構想—
- 藤田 美優 福島第一原発事故による放射能汚染と福島県在住農家の苦悩
- 周 驥昀 多年齢層の空間認識力を成長させる教育方法

\*久保美佳さんが文学部優秀論文として表彰されました。

## 【卒業論文9月卒業】

- 川勝 雄輔 日本における競艇場の立地 —住之江競艇場と尼崎競艇場を中心に—

## 【修士論文】

- 家村 一平 河内・山城・大和三国国境地域の近代的変容  
—歴史領域・生業・結節システムをめぐって—
- 井上 拓大 「寄せ場」釜ヶ崎の戦後の変化とコレクティブタウンの形成
- 王 大斌 日本のスーパーマーケットの立地に関する研究 —北摂地域を事例に—
- 方 立 蘇州古城の水郷景観の変遷と都市構造 —残存する地図を資料として—
- 林 穎 中国観光地の公衆トイレに関する地理学的考察  
—山東省威海市と神戸市の比較から—

坂田みゆき  
地理が好きなので、地理学専修に所属できてよかったです。これから、たくさんのお話を習得していきたいです。巡検が楽しみです。

澤田智規  
この度、地理学専修に配属されることになりました。以後何卒よろしくお願い申し上げます。まだまだ人として未熟なうえ何かとみなさまにご迷惑をおかけすることになろうと思われまいますので、温かく見守っていただきたい所存であります。

舟越 奨  
今年度から新しく地理学・地域環境学専修に入った舟越奨です。分からないことも様々な人と協力していきたいです。よろしく申し上げます。

水野 真  
新しく地理学・地域環境学専修に入りました水野真です。教職志望で日々授業に追われていますが、頑張ります。部活は関大体育会の活躍を報道する「関大スポーツ編集局」に所属しています。

清水紀宏  
文学研究科地理学専修の清水紀宏です。出身は山口県です。学部は大阪経済大学経済学部所属していたため、地理学の知識はまだですが、この2年間一息懸命勉学に励みたいと考えています。宜しくお願いします。

直 暁陽  
今年M1に入りました。勉強は忙しくなりましたが、先生や先輩たちの親切さを感じています。この良い雰囲気の中で頑張っていきます。

宋 蓉  
私は宋蓉です。中国の貴州省から来ました。大学は寧波工程学院でドイツ語を1年間勉強しましたが、その後専門を日本語に変更し2年間学びました。大学の4年生の時、交換留学生として9ヶ月間、東京の言語学校で勉強していました。地理学にとっても興味を持っています。宜しくお願いします。

## 卒業生からの一言

川勝雄輔  
私は地理学教室の中でも劣等生でしたが、卒業論文は野間先生に「他の先生を見返そう」と鼓舞していただき、真剣に取り組めたと思います。半年遅れでの卒業となりましたが、関西大学の地理学教室に入門して良かったと思いました。

## 地理学研究会再生検討会議についてのお願い

毎年12月第2土曜日に開催しています恒例の関西大学地理学研究会例会や秋の日曜巡検などへの卒業生の参加は、近年大変少なくなり、また会員数も漸減傾向が続いております。そのため、会計状況も大変厳しいものとなってまいりました。こうした状況は地理学（地理学・地域環境学）専修だけにみられるものではなく、関西大学文学部の他専修でも同様で、なかには同窓会そのものを廃止した専修もみられます。

また卒業生の皆様のなかには、『千里地理通信』がいつのまにか届かなくなったのは不愉快である、同窓会活動を以前のように活発化すべきである、等々のお叱りの声もお聞きしています。

こうした昨今の状況や、この10年以内に現教員スタッフの4名中3名が退職するといった教室事情も考慮しますと、地理学研究会の再生=再出発を早急に図る必要があるものといえます。

そこで、会計基盤の安定化、卒業生の方々の積極的参画による研究会活動の再生が肝要であると考え、本年12月12日の地理学研究会例会の当日に、卒業生各位にお集まりいただき、地理学研究会（同窓会）の再出発についてご相談申し上げるとともに、皆様には役員として今後の研究会の運営に参加・ご協力をお願いすることなどを協議する地理学研究会再生検討会を開催させていただく所存です。そしてこの会で一定の結論がでましたら、当日の地理学研究会にて臨時総会を開催し、地理学研究会（同窓会）の再出発について、会員各位にお諮りする所存です。

皆様方におかれましては、ご多忙のところ恐縮ですが、事情ご賢察のうえ、下記の要領にて開催します地理学研究会再生検討会に奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。なお、当日参加することができない方で、今後の同窓会の運営などに協力して下さる方や地理学研究会活動等についてご意見をお持ちの方などおられましたら、どの教員スタッフでも構いませんので、ご連絡・お知らせくださいますようお願い申し上げます。

### 記

開催日時	2015年12月12日（土）13時30分～15時00分
開催場所	関西大学第1学舎4号館（D棟）4階 地理学実習室
議 題	地理学研究会の再生について（事業活動、運営体制など）



## 今後の研究会行事

関西大学地理学研究会事務局

### 1. 秋の日帰り巡検のご案内

毎年、研究会の恒例行事となっています日帰り巡検を下記の要領にて実施いたします。今年度から学部2回生が「基礎演習a・b」の成果として資料を準備し現地案内します。多くの卒業生、院生、学生の参加をお待ちしています。

テーマ：草津市を地理学的視点で総合的に考える

日時：2015年10月18日（日）9時50分～17時すぎ（予定）

集合：JR東海道（琵琶湖）線 南草津駅 改札口前（橋上駅）を出たところ。9時50分

※JR大阪9：00～JR京都9：30～JR南草津9：48着（草津駅ではないことに注意！）

ちなみに運賃は大阪～南草津の通常運賃が1140円（大阪～京都を昼間回数券で買うと安い、金券ショップで大阪～草津購入可能、これは費用には含まれず）

コース：南草津（駅前開発）—旧東海道をあるく—草津宿（史跡草津宿本陣・草津宿街道交流館）—草津駅前の開発と商店街（昼食、12：30～13：30 一時解散）—JR草津駅西口—（貸切バス）—琵琶湖博物館（学芸員の橋本道範氏の解説と自由見学—（貸切バスで湖岸道路をいく）—北山田の野菜温室団地—矢橋帰帆島（大津市浄化センター）—近江大橋—JR大津駅（解散17時頃）

費用：1,500円（昼食代は各自負担、貸切バス代、駐車料、入場料を含む）

その他：雨天決行。草津市内で昼食とします。商店街に飲食店は多くあります。資料は当日配布。

連絡先：卒業生で参加希望の方は10月15日（木）までに、電子メールでM1の清水紀宏 k184638@kansai-u.ac.jp まで、氏名・回生・卒業生の区別、携帯連絡先をご連絡下さい。

教員責任者：伊東 理（携帯電話090-5665-3450）、野間晴雄（携帯電話090-2381-9752）

### 2. 地理学研究会第102回例会（研究例会）開催のご案内

下記の要領にて、恒例の地理学研究会研究例会を実施します。研究発表に先だって実習調査（高知県土佐市）の中間報告もいたします。また、懇親会も開催しますので、万障お繰り合わせの上、多数ご出席ください。なお、研究会後の懇親会にご出席の方は、12月8日までに事務局までお申し込みください。

日時：平成27年12月12日（土）15時開始 20時頃解散

会場：関西大学第1学舎A301（3階）\*ご参加希望の方はM1清水へご連絡ください。

講演 15：00～18：00

高知県土佐市実習調査 中間報告（博士課程前期課程学生による）

研究発表 吉兼崇博（山口県和木町役場）「意外と関係がある地理学と公務員業務—山口県和木町の公務員の場合—」

松本 太（敬愛大学・非常勤講師）「ネパール・テライ低地における住居の気候環境」

松井幸一（本学助教）「私の琉球研究」

懇親会：関大正門前のCAPECODにて18時より開始予定。会費2,500円。

連絡先：e-mail：k184638@kansai-u.ac.jp（担当：M1清水）

※研究例会に先だって、13時30分から15時まで「地理学研究会再生検討会議」を地理学実習室（第1学舎4号館4階）で開催します。

## 教室だより

### ■学生数

平成27年度当教室新入生は、新2回生29名、修士課程1年生2名であった。4月23日に新入生歓迎コンパをチルコロで開催した。学部生62名、大学院生8名となった。

### ■春の一泊巡検

恒例の一泊巡検は、5月30日（土）、31日（日）に下記の要領で開催された。テーマ：伊勢志摩の風土と黒潮文化。参加学生は地理学地域環境学専修の2～3回生、博士課程前期課程1年次生ほかであった。京都駅、午前8時20分集合、コースの概略：京都駅、伊勢市古市、伊勢神宮（内宮）、おはらい町・おかげ横丁（昼食）、海の博物館、二見浦興玉神社・夫婦岩（一時解散）、JR大阪駅（二次解散）。31日：徒歩にて二見、伊勢周辺の巡検。賓日旅館、伊勢河崎商人館、現地解散。引率：実習担当

者（野間・松井）。参加者数48名、うち日帰りは27名。

### ■M・D中間発表会

7月4日（土）13：30～18：10まで地理学実習室でおこなわれた。発表者は王遠航、清水紀宏、直曉陽、張立宇、張旭、齋藤鮎子の6名であった。

### ■教員の海外出張 2015年4月～2015年8月

伊東理：8月23日～9月14日、イギリス・バーミンガム市の都市発展と都市構造の変化調査（私費）。野間晴雄：2015年8月17日～31日、北インドの視察（私費）。

### ■新任非常勤講師紹介

秋学期の冬に集中講義として、中井達郎先生（担当科目：M自然地理学特別研究）にご出講いただいております。

随想

## クライストチャーチの 震災復興

瀧端真理子

2014～15年にかけての年末年始にニュージーランドを訪れた。ニュージーランドは初の訪問で、大きな博物館のある3大都市を滞在先に選んだのだが、南島では最大の人口を擁するクライストチャーチの震災後の復興は、想像以上に困難な状況にあった。

カンタベリー地震は2011年2月22日に発生、クライストチャーチ中心部、エイボン川から南のRED ZONE（立ち入り禁止区域）は、私が訪れた際にはすでに規制解除されていたが、市中心部には事実上、まだ立ち入り出来ない区域も残っていた。いまだに窓ガラスが割れたまま、立ち入り禁止になっているビル群、ビル倒壊後駐車場になったものの至るところが駐車場のためにがらんとした広い空地の連続、売り出され又はレンタルの看板が立てられた建物群、そして半ば倒壊したまま保存されているカンタベリー大聖堂や、半倒壊のまま放置されているシアター、復興工事中のアートセンターなどを目にした。

さらに驚いたのは、アートセンターと道一本はさんで西側のカンタベリー博物館やクライストチャーチ植物園が、ほとんど無傷のまま残っていることだった。英国風の美しいボーダーガーデンやロックガーデン、観光客向けに運行され始めた路面電車、復興プロジェクトのRe:Startというコンテナを利用したおしゃれなショッピング街を日中は楽しむことが出来る。しかし、夕方以降はこのショッピング街も閉店し、食事をする場所すら限られてしまう。ホテルの数も少なく、大半はアパートメントタイプかモテルだ。

1877年に建設され、1976年までカンタベリー大学の校舎として使用されていた由緒ある建物を利用したアートセンター、またオセアニア最大規模の美術館であるクライストチャーチ・アートギャラリー、いずれも再開のめどが立っていない。その代わりに、空地や倒壊を免れたビルの一部を利用する形で、アートギャラリーのOuter Spacesが設けられていた。また、倒壊を免れたビルの壁面には大きなグラフィティ・アートが描かれている。

カンタベリー博物館の別館として、Quake CityがRe-Strat地区にオープンしており、震災の記憶の保存に努めている。興味深かったのは、スケーターたちが震災直後に撮影し、YouTubeに投稿した映像が紹介されて

いたことである。立ち入り禁止のロープを越え、ひび割れた歩道やガードレールを伝い、スケートボードで滑走する映像は、震災直後の市内の様子を伝える貴重な資料として紹介され、また相次ぐ余震や進まない復興事業に苛立つ市民らを描いた風刺画も大量に展示されていた。

南島観光の拠点として多くの観光客を迎え入れているが、中心部のビジネス街は本当に復興可能なのか、疑問を抱えながら3泊4日のクライストチャーチでの滞在を終えた。

(追手門学院大学心理学部教授・本学非常勤講師)



写真1 倒壊したままの劇場



写真2 借り手のない駐車場

千里地理通信 第73号

2015年9月30日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：松井幸一 清水紀宏

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

E-mail：kandaichiri@gmail.com（新メールアドレス）

URL：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪00970-4-81149